

架空法人「特定非営利活動法人ビヨンド・ザ・バリア」の取り組み

1. 法人概要 ビヨンド・ザ・バリア

特定非営利活動法人ビヨンド・ザ・バリアの概要は、以下の通りである。

| | |
|----------|--|
| 法人形態／法人名 | 特定非営利活動法人ビヨンド・ザ・バリア |
| 設立年 | 2013 年 |
| 所在地 | 神奈川県 |
| ミッション | 重度障がい者が働きやすい地域社会を実現する |
| 代表理事 | A 氏 |
| 役員、スタッフ数 | 理事：3 名、監事 1 名 有給スタッフ：10 名（非常勤・アルバイト含む） |
| 事業内容 | 障がい者の雇用を促進するための職業訓練、障がい当事者・家族・企業の相談、企業への啓発、マッチング、研修、コンサルティング事業 |
| 事業規模 | 約 3,500 万円 |

代表理事の A 氏がこの分野で活動を始めたのは、彼の後輩が交通事故に巻き込まれ重度の障がいを持ったことがきっかけである。そのとき、彼は 18 歳。高校を卒業して、IT 系の専門学校に進むことが決まっていた矢先だった。「みんなと同じように学びたい、そして働きたい！」でも重度の障がいがあるだけで、腫物を触るような眼で見られてしまう。一生病院か施設で人生を送るのか」と泣き叫ぶ友人の苦悩を聞いたことが原体験である。障がいがあっても健常者と同じように仕事につける環境を整えるために、様々な事業を行っている。事故に遭った後輩もう 24 歳。施設でふさぎ込んでいると聞く。後輩の笑顔を見るために、そして障がいがある当事者でも生きがいを感じて社会の中で生きていくための支援をしたい。そう心に誓った。

2. 重度障がい者の雇用にまつわる問題

厚生労働省が出した「平成 30 年度障がい者雇用実態調査結果」によると、身体障がい者を雇用している業種は卸売業、小売業が 23.1%、次いで製造業が 19.9%、ほか医療、福祉となっている。調査報告書には仕事をしている障がいの程度別のデータもあり、重度が 40.4%、重度以外が 49.8% となっている。

ビヨンド・ザ・バリアが実施したインタビュー調査により、次のような問題が見えている。20 代、30 代で重度の障がいがある人は働く意思が強いこと、体力的に製造業、卸売業、小売業はきついこと、障がい者が使用できる IT の技術が進んできたので、体が不自由でも、動かすことができる口やあご、指などにステックを装着して、スマートフォンや PC を使って文字入力をしたり、カーソルを動かせること、さらに SNS などを楽しんでいることがわかった。障がい者の仕事が制限されている理由としては、①過度に心配する家族の存在（仕事をすることに積極的でない）、②介護者がシニアに向けたトレーニングしか受けておらず、働く意思のある若者の障がい者に対してどのように接していくのかわからないためにストッパーになってしまい、③受け入れ側の企業がどのように対応して良いかわからないなどの情報も得られている。

3. ビヨンド・ザ・バリアの活動

ビヨンド・ザ・バリアでは、「重度の身体障がいのある 20 代～30 代」を対象として、「自分が望んでいる仕事につけない」という問題を解決するために、障がい者への職業訓練だけではなく、ステークホルダーとなる雇用する企業、家族、介護者の意識改革や、企業の環境整備の支援などが必要であることがわかり、以下のような事業を実施している。

| | |
|----------|--|
| 障がい当事者向け | <ul style="list-style-type: none">・ 障がい者の雇用を促進するための職業訓練・ 障がい当事者の相談対応・ 企業や適切な介護者とのマッチング事業（就労支援の機会を提供） |
| 家族向け | <ul style="list-style-type: none">・ 障がい者の家族向け相談事業・ 障がい者の就労に関する情報発信事業（事例紹介など） |
| 企業向け | <ul style="list-style-type: none">・ 企業に対する研修・啓発事業・ 障がい者雇用のマッチング・ 適切なトレーニングを受けた介護者の導入・ コンサルティング事業（重度障がい者が働きやすい職場環境整備のためのアドバイス） |

中長期・短期アウトカムは、課題の分析を経て以下のように設定している。

| | |
|----------|---|
| 中長期アウトカム | 重度障がい者が働きやすい地域社会を実現する |
| 短期アウトカム | <ol style="list-style-type: none">1. 就労を支援する家族が増える2. 障がい当事者の仕事の選択肢が広がる3. 障がい当事者が仕事を長く続けやすい環境になる |

4. ステークホルダーの声

重度障がい当事者（20 代男性）の話

「大学卒業まではなんとかできたが、その後の就職でつまずき、3 年間引きこもっていた。障がいは誰にでも起こり得る身近なものであることをわかってもらいたい。ビヨンド・ザ・バリアに通ってから、障がいがあっても普通の生活を送り、普通の人と同じように働きたいという思いが強くなった。」

重度障がい家族（50 代女性）の話

「ビヨンド・ザ・バリアの就労支援を受けてから、息子（障がい当事者）が自分で出来ることが少しづつ増えてきて、自信を持つようになってきたと感じている。そのため、考え方が前向きになり、就職活動へのモチベーションがあがっている。そんな息子の変化を目の当たりにして、私たち家族も、息子を守るだけではなく、社会に出ていこうとする我が子を応援したいという気持ちになっている。正直、心配も尽きないけれど…。」

障がい者雇用を志向する企業の話

「法定雇用率の達成、また人材不足解消のために、良いご縁があれば、積極的に採用したいと考えている。ビヨンド・ザ・バリアのセミナーに参加して、障がい当事者の特性に配慮した業務内容とサポート体制の考え方、また周囲の社員から理解を得るための方法について知ることができた。」

（以上）